

令和8年5月27日

まちづくり委員会資料

公園等におけるグリーンコミュニティの形成について

建設緑政局

公園等におけるグリーンコミュニティの形成について

1 背景と課題

本市では、「川崎市緑の基本計画」に基づく市民等との協働の取組として、公園等の管理運営に関する活動が全市的に広がってきましたが、活動団体の高齢化や世代交代の停滞により担い手不足が生じているほか、公園緑地への利用ニーズが多様化しているため、協働の取組の持続性確保と公共空間としての公園等の活用が喫緊の課題となっています。

■課題

- ・ 協働の取組の持続性確保
- ・ 公共空間としての公園等の活用



これまでの公園管理者主体の取組から、市民、企業、団体などの多様な主体に関わってもらい、新たな担い手を育てる仕組みや公園等における多様なニーズに対応した新たな取組を進めることで、『みんなが気持ちよく、いきいき過ごせる公園（持続的な管理運営）』を目指す

こうした中、全国都市緑化かわさきフェア開催を契機として、まちなかの多様なみどりへの市民の関心が高まるとともに、花苗づくりやフェアボランティアなどを通じた体験も全市的に広がっており、これからの100年に向けて、公園等における持続的な取組を推進するためのグリーンコミュニティの形成をかわさきフェアのレガシーとして取り組んでいます。

2 グリーンコミュニティの形成

“公の管理”だけ、“ボランティアや協働”だけでなく、まちに関わるみんなで一緒に、私たちのまちについて考えていく。みどりを軸に市民、企業、大学など、多様な主体のつながりが増え、多世代が関わるほど、まちの価値・持続可能性が高まる。これまでの取組や緑化フェアを機に一定のつながりはできたが、もっと多くの人を巻き込み、つながる機会をつくる必要がある。

◆みどりを通じた連携の機会 (マッチング)

- 多様な主体や団体同士が出会い・連携する機会
- 多業種・多職種が出会い・発見し、一緒に取り組む機会

◆みどりの先進的取組を生む機会 (新しい価値の創出)

- これまでになかった新しいみどりの価値や効果を生む機会
- 研究成果の日常への実装

**みどりでつなげる
暮らしやすく住み続けたいまち**

◆みどりに関わり続ける機会 (継続・活性化)

- 継続してみどりに関わってもらえる機会
- 多世代が一緒になって活動する機会

◆みどりに触れる機会 (関係人口の増加)

- みどりに関心のない・関わっていない人に関心を持ってもらう機会

公園等におけるグリーンコミュニティの形成について

3 みどりを通じた連携の機会（マッチング）

市民、企業、団体など多様な主体に関わってもらい、新たな担い手を育て、持続的な協働の取組を進めてきました。全国都市緑化かわさきフェアを契機に高まった市民の「緑への関心」を踏まえ、地域でつながり、公園に関わる人や機会が増えることで、公園や地域の魅力・価値が向上し、市民等の『したい』が実現することを目指しています。



<活動チラシ
作成支援>



自分でも何かできるか
考えるきっかけ

公園での活動を
知るきっかけ

みんなが
気持ちよく、
いきいき過ごせる
公園

公園の
活用を支援

公園での活動に
参加するきっかけ



<スターターブック>

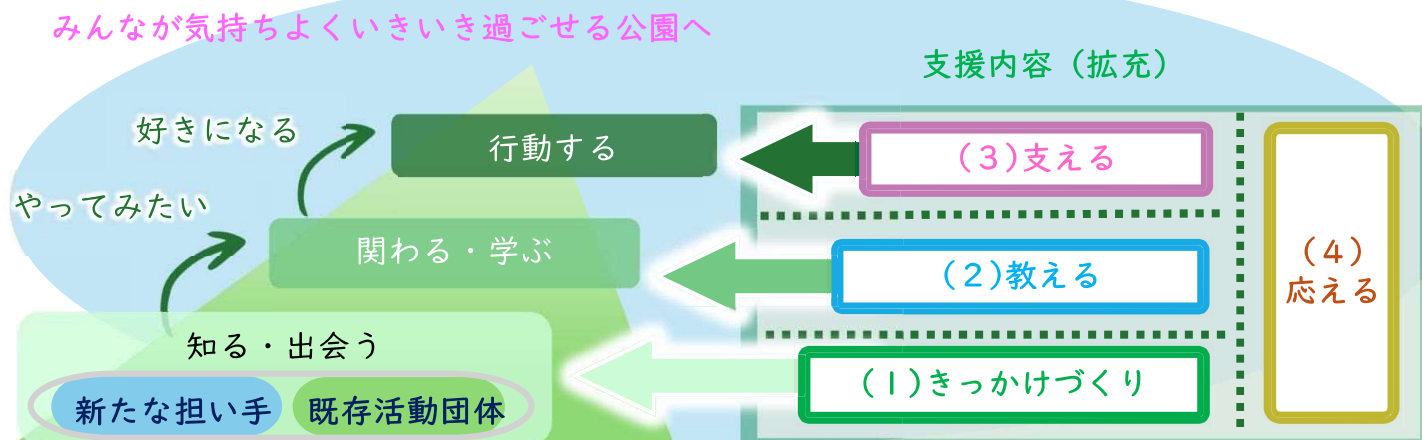


<イドバタパークデイ>

4 みどりに関わり続ける機会（人材育成）

市民等の『したい』が実現して持続的な活動につながるよう、多様な主体が公園緑地等で活動するまでのステップを整理しました。それぞれのステップでの適切な支援によって人材を育てる仕組みを構築し、支援内容を拡充しています。

新たな担い手を育てる仕組み



公園等におけるグリーンコミュニティの形成について

5 様々な支援の実施

